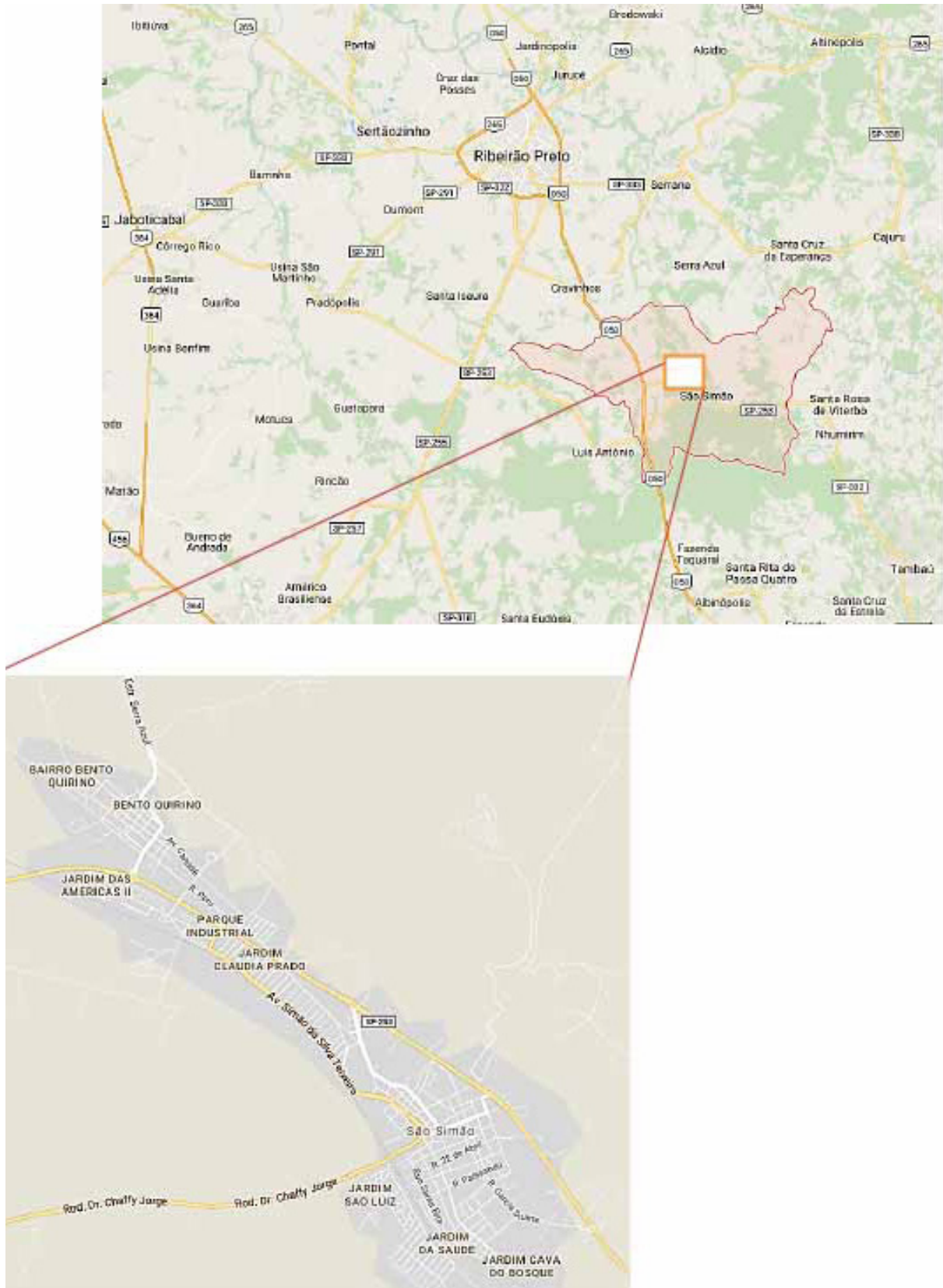


第三章 27) サンタ・マリア耕地 (サンタ・マリア駅)

モジアナ線サン・シモン駅～セラ・アズール駅

(サン・シモン、ベント・キリノ、タマンドアジーニョ、セラ・アズール)

*宮本久記が1912年、巖島丸、第3回移民を引率して通訳で入る。(「移民40年史」)



28) セラ・アズール耕地 (ベント・キリノ駅)



ベント・キリノ駅

*上野荒市、1913年5月、第二雲海丸第5回移民（「平野25周年史」）

*山本義時、1913年11月、若狭丸、熊本県八代市興善寺町出身、同駅パライゾ耕地就労中、先輩移民者の煽動で採集袋が大き過ぎるとの理由で、32家族がストを起してしまう。これを重視してリベイロン市より領事が駆けつけ収拾策に当る。（「熊本県人発展史」698ページ）

*奥田亮、1929年3月備後丸、石川県石川郡林中村出身、同駅サンタ・マリアナ耕地に就労後、ノロエステ線を転々として、落着いたのがパラナ州トレスバラス移住地パルミッタ区であった。（「トレスバラス移住地開拓20周年史」583ページ）

29) フォンセカ耕地 (セラ・アズール駅)

*江島芳太、1914年渡伯、福岡県浮羽郡江南村出身、同駅パライゾ耕地で義務農年終了後、幾度と移転を繰り返して、パラナ州トレスバラス移住地ジャンガーダ区に入植する。

（「トレスバラス移住地開拓20周年史」658ページ）

*田中龍介、1917年、若狭丸（「平野25周年史」）



フォンセカ耕地 セラ・アズール駅

30) サン・ルイス耕地 (セラ・アズール駅)

*山本久一、1934年2月、マニラ丸（「平野25周年史」）

*佐藤正信、1933年1月、ハワイ丸、北海道空知郡美唄町出身、同駅入耕就労2農年後、パラナ州バンデ
イランテ駅コーヒー契約農6年、後マリンガ市内でパン製造業を始める。

（「ブラジル日系紳士録」835ページ）